

節分

誘導保育の主題

附屬幼稚園 志村 貞子

輝かしい紀元二千六百二年の新春を迎へました。戦捷の新年を心から慶祝するに共に、今後の如何なる苦難にも必ず打勝たうとの覺悟を、更に一層新たにするまででございます。けれども幸福な我が國の幼兒たちにまつては、このお正月も、一つお歳が多くなつた嬉しいときであり、凧上げに、双六に、かるたに興じた楽しい毎日であつたときでせう。

間もなく幼稚園が始まるに、「先生、おめでたう」「おめでたうございます」「溢れるばかりの元氣さで、にこ／＼顔で、さびついてくる子供たちは、先づ僕の、私の、楽しいお正月のお話をきかせてくれることとせう。

このお正月のお話から、一月、二月といふ月の數へ方、春夏秋冬の季節のうつりかはり、年中行事の話等、子供の持つてゐる知識や經驗を引き出してやりながら、足りないところは補つて、上手にはなしあひをすゝめてゆけば、いろいろ面白い方面に誘導發展させてゆけるのではないかと思ひます。こゝにその一つとして節分を主題として取り上げ

てみました。もよより經驗淺き私の一試案に過ぎません。皆様の御高評を賜はれば幸甚に存じます。

はなしあひ。楽しいお正月のお話から、——「今は一月、一月はお正月ね。お歳が一つ多くなつて、みんなお兄様、お姉様になつたのね。では一月の次は何月でせう？さう、二月ですね。二月には何があるかしら？、豆撒きがあるでせう。皆さん、豆撒きをなさつたことあるでせう。」「あゝ、」「さう、○子ちゃんは？」「お兄様、」「さう、お兄様が撒くのね。何ていつて撒くの？」「福は内、鬼は外つて。」「さうね、」「それからお豆をたべるの。お歳の數だけつかめればいゝんでせう。」「キャラメルもまぜて撒いたの」等々、上手に、きいてやりながら、子供達の經驗した豆撒きを話させてみたいものです。それから、先生が、節分三立春について、簡単に、わかる程度に話して聞せるのもいゝでせう。また何故「福は内、鬼は外」三いつて炒豆を撒くのかを昔からの民譚によつて話しても喜ぶこととせう。また先生が豆撒きの可愛いゝおはなしを創作してきかせれば、な

ほ大喜びでせう。

かうして、はなしあひやお話のうちに、子供達の節分、豆撒きへの興味をよびおこして來たいものです。さうして、「もうすぐ豆撒きの日がくるわね。先生、幼稚園でもお豆撒かないの。撒きませうよ、撒きませうよ」等さいひ出せば、その機會を捉らへてすぐ、節分の用意にまりかゝります。

お面。(福の神と鬼)お面もいつても額にあて、テープを後頭部に廻して結ぶ、いはゞ前だけの冠の様な形のがよいと思ひます。形は子供達の自由な創作にまかせたいと思ひますが、難しければ、福の神は、福笑ひのおかめさんの顔、それに鬼の顔を、輪廓だけ、或は目鼻も入れて、謄寫刷にしておき、色を塗らせます。切抜いて、左右に適當な長さの紙テープをはれば出來上ります。

袴。模造紙、又は有合せの、なるべく丈夫な紙を用ひます。子供達の標準身長に合せて肩衣袴を一揃つくりませう。縫つたり、貼つたりして。繪具で彩色して出來上ります。これは大體先生の仕事ですが、彩色の時なごには子供達にも手傳はせませう。

お豆。時節柄、手に入りにくいと思ひます。丁度、幼稚園のお庭にまいた落花生から、かなりの收穫がありましたのでこれを用ひるのもよいと思ひます。お豆でなくても衛生ボーロなごのやうなお菓子でも思ひますが、これもむ

づかしいでせう。何かよい御心づきはございませんか。

豆入袋。縦九糎、横約七糎位の袋をつくり、豆撒きに因んだ模様をつけ、各自の名前も書いておきませう。

五合枲を用意します。これで用意が出來ました。

節分の當日には年男をきめて、豆撒きをします。組のお部屋、幼稚園のお玄関、先生方のお部屋、他の組のお部屋、お遊戯室に方々に撒きたいものです。年男は洋服の上から袴をつけて、枲をかゝへて、大きな聲で、はつきり「福は内、鬼は外」をいふのです。撒く場所毎に年男をかへれば、多勢の子供が年男になれます。女の子でもかまひません。年男以外の子供は半數づゝ福の神と鬼になつて、それ／＼作つたお面をかぶります。豆を撒く場所には、はじめ鬼だけがるます。そして、年男の聲と豆とに追はれて、逃げ出したところへ、入れかはりに福の神が「おめでたうございませう」といひながら、入つて來るのです。年男が代る時に、福の神と鬼も代る方がよいでせう。これを各部屋毎に繰返すのですが、子供たちは飽きるこゝなく喜んで致します。豆撒きが済みましたら、歳の數だけお豆をいたゞいて袋に入れます。

少し前からの、簡単な準備と節分當日の豆撒きによつて、子供たちの心を、生活を、みんなにか豊かなものにするこゝが出来ると思ひます。